

三重県東員町から送る、みんなをハッピーにする新聞

TOIN GOOD NEWS PRESS

2022.06

とういんグッドニュース新聞

02



ぐっとくる

夕焼けに染まる東員町鳥取の田園風景

photo by Ayumi Suzuki

60年ぶりの 場所



自転車仲間4人で、旧東海道を走ってみようということになった。桑名宿の七里の渡し跡から、鈴鹿の石薬師宿まで古い街道を辿った。家を出てからの距離は75kmほどになった。

4人とも70歳に近いので、ゆっくり時間をかけて走る。普段は訪れないところに立ち寄るのも自転車旅の味わいだ。今回も、思わぬところで懐かしい場所に付き合った。

家路も終わりに近づいたときのことである。三岐鉄道の北勢中央公園口駅近くで、切り通しから脇にそれる草生した小道を見つけた。自転車を停めて、他の3人をその道へ誘った。



があった。子どものころに友だちと来て遊んだところだ。すっかり記憶から遠ざかっていた。橋は60年前と変わらず線路をまたいでいて、周りにはわずかに雑木林が残っている。

林の中に目をやると、ターザンごっこをした縄が、今も樹々の枝から下がっているような気がする。樹の幹の根方に、友だちとこしらえた隠れ家は残っていないだろうか。自転車仲間の顔が幼なじみの顔になっている。橋の上には60年前と同じ時間が流れていた。橋の下を過ぎる電車の音で、ふと我に返った。その音も昔のままで。

この日、はるばると自転車で行ったのは、ここへ辿り着くためだったのかもしれない。

(東員町・Mario・Bike・9歳)

居眠りしたら……

定時制高校で卓球部の顧問をしています。あるとき、3年生の男子生徒1名を引率して他校へ練習試合に行きました。

この生徒は緘黙とされていて、しゃべることができず、首をたてに振るかよこに振るかしかない生徒です。

目的地へ着くまでには電車を4回乗り換えるのですが、ホームで私は「これに乗った次は御影で乗り換えるから……」と、ひとりこのように口にしました。そして電車に乗ると、席に座るなり私は眠ってしまいました。

ふと気がついたのは、どこかの駅に着いたときでした。とっさに、「どこ?!」と、寝ぼけたまま生徒に訊きました。

すると彼は立ち上がりながら、降車を促すように「御影です」と、はっきり言ったのです。私は電車を降りながら、「じゃ、しゃべった?!」と驚いていました。

調子にのった私は、乗り換えた電車の中で、「次は香櫨園で降りるから、もし寝てたら起こしてね」と言っただけで寝てしまいました。すると期待ど

おり、生徒は香櫨園で「先生、先生」と声を出して私を起こしてくれました。この生徒は就職を希望しているのですが、「面接で声を発することができないのかな」と先生方は悩んでいるところでした。

居眠りをして生徒に起こしてもらったのは引率の役割としては失格ですが、生徒に対する思い込みや接し方への気づきを得られ、進路実現にも一糸の光が見えた出来事でした。

(兵庫県・ひまわり、48歳)

あいさつは人を元気にする魔法

小さい頃に両親から、「近所の人に会ったら、あいさつするんやぞ」と、教えられた。訳もわからず、言われるがままに、

「早いね(おはようございます)」「ええ陽やね(いいお天気ですね)」と、大人の真似をして出会う人に声をかけた。

ある日、誰かも知らない人にあいさつをしたとき、

「おまえ、どこの子や?」

と聞かれて父の名前を伝え、なんだか嬉しい気持ちになった。家に帰って、父にそのことを話すと、「そんでええ」と言われた。何日かあとに、

「こないだの人は〇〇さんや。お前のこと、褒めてござったぞ」と聞かされ、誇らしく思ったことを覚えていた。

親になって、この教えは我が子にも伝えた。

「おまえんとこの子は、ようあいさつするな」

「ええ子やな」と褒められると、我が子に伝え親子で喜んだ。親の知らないところで、我が子もあいさつをしていることがわかって、嬉しかった。

私自身、60年あまり経った今でも、小さい頃のこの教えは守り続けている。

ある日、会議でときどき会う友人に、「〇〇さんの顔を見ると、ほっとする

わ」と言われた。「こんにちは。元気?」と声をかけるとき、知らずと笑顔になっているのだろう。

そうか、あいさつは人を元気にする魔法なんだ。

なんの道具も技術もいらない、社会を明るく元気にする魔法なんだと思う。だから、あいさつをする。そして、あいさつをされる。いつの日か、あいさつだらけの世界になればと思い、孫の手を引いて今日もあいさつを交わす。

(東員町・晴れ時々曇り、63歳)

アマゴも楽しそうだね!!

昨年の6月、いなべ市でアマゴの放流があり、家族で参加させていただきました。

冷たい水にキャッキヤとはしゃぎながら、アマゴを放流させてもらい、とても楽しい時間となりました。

放流後、元気に泳ぐアマゴを見て、「楽しそうに泳いでいるね」と、子どもたちと言葉を交わしながら、ふと何日前にラジオで聞いた話を思い出しました。

それは、共感することの大切さについての話で、「子どもが共感してほいときに共感してもらえないと、感情の語句のイメージが少いまま育つ」といった内容のものでした。

たとえば子どもが楽しいときに、大人から「楽しいね」と言われることで、「これが楽しいっていうことなんだ」というふうに、「楽しい」という言葉のイメージが豊かになります。

一方で、悲しい気持ちでいるときに、叱られたり、冷たくあしらわれ、共感

してもらえないと、「悲しい」という言葉のイメージが乏しくなります。

その子が友だちとけんかをしたとき、「だれだれちゃんが悲しんでいるよ」と伝えたとしてどうでしょう。「悲しい」という言葉のイメージがきちんとつかめていなければ、友だちの気持ちを想像することは、きっと難しいだろうなと思います。

「元気だね!」と、子どもたちといっしょにアマゴに声をかけながら、この子たちがこれから出会ういろいろな感情に、しっかりと、正しく共感して、豊かな感情を育てていってあげられたらと思います。

アマゴの元気に泳ぐ姿を心の原風景に持てた今回の体験は、閉じた家庭や座学では得られない、生きた「感情」を学ぶよい機会になりました。

かけがえのないひとときを、ありがとっございました!(いなべ市・ひょうきんどんぶり、39歳)



トゲ

暖かくなってきた。草抜きをしていた。すると、

「痛い!」中指の先にトゲが刺さった。あわてて抜こうとするが、遠視が強くなった私の目にはなかなか厳しく、その場では放っておいた。

ほかっておけば何ということもないのだけれど、ふと、痛くなることがあった。

気にしなければ、気にならなくもない。しかし、一度気になりはじけると、なんだかとても気になってきた。落ち着いて毛抜きで抜こうとするが、ちよつとさわるだけでめちゃくちゃ痛

い。何度かチャレンジして、ようやく抜けたときの安堵感。痛みもすっと抜けた。

筋トレで鍛えこんだ私の体でも、わずか1ミリの程度のトゲにすら歯が立たないなんて、なんとも情けない。やはり自然には敵わないと、改めて気づかされた。

(義名市・筋トレ親父、51歳)

みてっ
とういん

こども歌舞伎

が3年ぶりに帰ってくる！

第25回東員町こども歌舞伎公演

演目

白浪五人男

稲瀬川勢揃いの場

義経千本桜

道行初音旅言野山道行の場

新型コロナウイルス感染症の流行を受けて、昨年、一昨年と開催がかなわなかった「こども歌舞伎公演」。今年は万全の感染防止対策のもと、晴れて開催の運びとなりました！3年ぶりの公演ということもあって、真剣な表情で稽古にのぞむ子どもたちは気迫満点。

そんな彼らも、ひとたび舞台を降りれば大人顔負けの迫力はどこへやら、あどけない笑顔を見せてくれます。

ひさびさの公演に向けた思い、そしてこども歌舞伎の魅力について、出演者のみなさんと先生にお話をうかがいました。

3年ぶりの特別な公演

「子どもたちも私たち大人も、みな

な喜んでいきます」

と顔をほころばせるのは、指導にあたる市川梅香先生。公演のない年もずっと練習を続けてこられたといいますから、喜びもひとしおでしょう。とくに今回、すでに卒団している3名の元団員にとっては、ことさらに「特別」な公演となりました。

「コロナで公演ができないまま卒団を迎えたことが心残りでした。それが今回、舞台上がらせてもらえることになって、とてもうれいんです」と、卒団生の山崎さくらさん。2度の中止で「最後の公演」を迎えられずに卒団となってしまった山崎さんたちにとって、今回はまさに特別出演。なんともあたたかく、そして粋なはからいとなりました。

子どもの成長の場として

幼稚園の年長で入団した山崎さん。こども歌舞伎とともに育った日々は、さまざまな成長を山崎さんにもたらしてくれました。

「自分とまったく立場の違う人を演じるので、台本から心情を考えて役になりきる必要があります。そのおかげで想像力が豊かになったと感じています。大勢の前に立つ勇氣も持てるようになりました」

得られたものは自身の成長ばかりではありません。

「先生方との師弟関係が築けたこと、年齢が違ふ友だちがたくさんできたこと。これはかけがえのないものだと思います」

こども歌舞伎を通じた出会いから、大切なきずなも多く生まれたようです。

「少しでも興味があれば、気軽に入団してみてください。ぜひ、ここでしかない経験をしてもらえたらと思います」

歌舞伎が好きになる瞬間

「はじめは言われたことの意味もわからずに、稽古にのぞむ子がほとんどです」

と、市川先生。入団時点では、歌舞伎についてなにも知らないのは当然でしょう。

「それでも、厳しい練習にもめげずに、みんなとてもよくがんばってくれています。そうして舞台上に立ち、お客様に見てもらって拍手をいただく。そのとき初めて、本人たちもよかったです。ますます歌舞伎を好きになれるんです」

舞台上で受ける盛大な拍手が、子どもたちの自信を、さらには技術をも



育てることにつながるのかもしれない。

「子どもたちは、うそをつかずに演じてくれます。だから私たちも、舞台を観て裏切られたことはありません。ぜひ、子どもたちの歌舞伎を観にきていただけたらうれしいです」

時に勇ましく、時にしなやかに、また時にはおもしろおかしく、めまぐるしく表情を変える子どもたちの熱演に、きつとあなたも魅了されること間違いなしです。

東員町こども歌舞伎、まもなく開演！

自分のできることを全部出して、完璧な舞台にしたいです
(中学2年・杉原舞月さん)



お客様にすごいと思ってもらえる舞台にしたいです
(高校1年・杉原晴明さん)



本番が楽しみ！
(小学3年・古田琉心さん)



特別出演する卒団生の山崎さくらさん



こども歌舞伎って？
どうして東員町で？

十代目松本幸四郎さんや女優の松たか子さんのひいおじいさんにあたる歌舞伎の名優「七世松本幸四郎丈」は、ここ東員町で生まれました。

そこで、歴代の松本幸四郎丈を顕彰し、子どもたちに日本古来の伝統芸能である「歌舞伎」を知ってもらうとともに、地域文化の振興に寄与することを目的として、「松の会」が結成されました。

会の活動の一環として1996年5月に開催された「第1回こども歌舞伎発表会」をきっかけに、現在にいたるまでの長きにわたって「こども歌舞伎」は上演を続けてきました。

いまでは東員町に「愛着」と「誇り」を育む文化資本として定着し、大切にされています。

◎公演情報

第25回東員町こども歌舞伎公演

・日時 2022年6月19日(日)

午後1時30分開演

(午後0時45分開場)

・会場 東員町総合文化センター

ひばりホール

・電話 東員町総合文化センター

0594(86)2816

チケットは好評につき完売しました！

文化をつなぐ 子どもたちと薪能

自然林の中にある能舞台で演じられる能と、里に響く囃子方の音。
2021年5月末、いなべ市藤原町古田の紫光窯にて、薪能が開催されました。

会の前半、地元の子どもたちが仕舞を踊ります。一生懸命に踊る子どもたちの姿に、心が温かくなるとともに、能という文化が自分と近づく感覚になりました。

子どもたちは半年前から能の先生に稽古をつけてもらいます。能という言葉は知っていても、子どもたちには踊った経験などありません。当然、最初は言われたとおりに踊ります。

回数を重ねるうちに、先生が教える内容が変化します。所作から意味へ。意味を理解すると断然動きが変わります。先生から助言をもらうと、「そうか」と納得して、すぐに改善します。

古典芸能である能は難しく、理解しにくいと思っていた私の前で、子ども



たちはどんな自分ものにしていきます。そして当日、堂々と仕舞を踊りました。踊り終えた表情は、満足感でいっぱいです。

文化は、このように引き継がれるのだなと感じた瞬間、能が自分に近づく感覚になったのです。伝統だから引き継がなければならないのではなく、納得し、理解することで、自分と文化が重なって、つながっていくのだと。

仕舞を踊った子どもたちが将来どのような道を歩んでいくのかはわかりませんが、いつか子や孫に今回の薪能のことを話するとき、文化はまた引き継がれていくでしょう。

文化とは、今と未来をつなぐものではないかと考えます。自分の住んでいる地域の文化を知ることが、未来につながることになるのでしょうか。

能と里に響く囃子方の音に未来を感じた一夜でした。

(いなべ市・ホテルの里・40代)

東員町の 魅力を知った 1日!



昨年の6月、弊社代表の遠藤とともに、東員町役場へ伺いました。

私たちハウスクラフト株式会社は、三重郡菟野町に本社をもつ工務店です。2008年の設立以来、菟野町、鈴鹿市、津市、四日市市と拠点や事務所を広げており、お世話になっている近隣地域に恩返しをしたいという社長の熱

い想いから、弊社オリジナルの絵本の寄贈を行なっています。

この日は東員町を通して町内の保育園と幼稚園へ寄贈をさせていただくにあたり、役場の教育長室にて、盛大な寄贈式を開催していただきました。東員町教育委員会の岡野教育長や職員のみなさんには大変お世話になりました。

この場をお借りして、あらためて御礼を申し上げます。

岡野教育長からは、東員町の魅力をおますこととお話しいただきました。

中でも印象に残ったのは、「東員町16年一貫教育プラン」です。

命が宿ってから義務教育終了までの16年間、それぞれの時期に合わせた育て方をすることが



重要とのこと、たとえば中学生の時期には「友達(親友)同士の関わり合い」「学び合い、教え合うという体験」「達成感や周囲からの承認を得ること」が大事だといえます。私自身も中学生の子どもをもつひとりの母親として、とても心に残るお話でした。

また、町全体として子育てや教育に大変力を注がれているというのを知り、東員町が全国の中でも注目を集める人気の地域だということにも、とても納得できました。

教育委員会のみなさんには熱心に、また時にはクイズも交えながら楽しくお話しいただき、役場をあとにするころには、すっかり東員町ファンになってしまいました!

大切に育てられている子どもたちがいきいきと輝くこの東員町で、お贈りした絵本を少しでもお役立ていただければ、とてもうれしく思います!

(三重県・坂香奈・40歳)

投稿募集

あなたのまわりのグッドニュースをお寄せください。
文章のほか、写真、イラストなども大歓迎!

投稿先

(お便り)

〒511-0255

三重県員弁郡東員町大字長深 3393

グッドニュース新聞社 記事投稿係

(メール)

info@goodnewspress.co.jp

(ホームページ) (Facebook) (Twitter)



投稿の際はタイトル、お名前(ペンネーム)、ご住所、年齢、ご職業をお書き添えください。
掲載にあたっては事前にご連絡を差し上げます。

編集室より

日々町内を駆け回って、さまざまなグッドニュースを取材しています。取材のために新たなグッドニュースの種を見つけたり、うわさを聞いたりと、やっぱりいいニュースはいくらでもあふれているんだなあ、と実感します。

「こんなおもしろい人がいるよ!」「これを取材してほしい!」といったお声が、いくつか新聞社に届いています。自分で記事を書くのはちょっと……ということでも、そんなふうに気軽に声を寄せくださいね!